

## <日本における女性スポーツの歴史>

日本の女子アスリートで初めてオリンピックに参加した選手をご存じでしょうか？

その人物こそが <sup>ひとみ きぬえ</sup>人見 絹枝 選手 です。

人見選手は、1928 年に開催された第 9 回アムステルダム大会の陸上競技女子種目に出場し、800m で銀メダルを獲得しました。これは、日本人女性として初のオリンピック出場であり、同時に初のメダリストとなる快挙でした。

もともと人見選手は 100m を本命種目としており、800m にはエントリーしていたものの、100m でメダルを獲得できれば棄権する予定でした。同年の全日本陸上競技選手権大会では、非公認ながら 12 秒 2 という世界記録を樹立しており、金メダルへの期待も高まっていました。

しかし、100m では実力を発揮できず、まさかの敗退。人見選手は「このままでは日本に帰れない」との思いから、800m への出場を決意します。驚くべきことに、彼女はそれまで 800m を走った経験がなく、この大会が初めての挑戦でした。

それでも予選を勝ち抜き、決勝ではトラック 1 周(400m)時点で 6 位。しかし、ラスト 200m で 3 位の選手をとらえ、残り 100m で 2 位の選手を抜き去りました。そこから先の記憶はなかったのですが、結果は見事 2 位。銀メダルという偉業を成し遂げました。

動けなくなるまで全力を尽くした彼女の姿は、現地チェコの人々に大きな感動を与えたといえます。

その後、1931 年 8 月 2 日——奇しくも銀メダル獲得からちょうど 3 年目の日——人見選手は肺炎のため、わずか 24 歳でその短い生涯を閉じました。

女性がスポーツをすることに偏見があった時代に、女性スポーツの普及に尽力した人見絹枝選手。彼女の勇気と挑戦に、今一度思いを馳せてみるのも良いかもしれません。

